

## 「目を離さず」そして「心も離さず」

けん玉、こま、あやとり、お手玉、めんこ、凧あげ…。一年生は「昔の遊び」に夢中です。「おしくらまんじゅう、おされてなくな！」 そういえば、寒い中での遊びの定番の「おしくらまんじゅう」はどこにいったのでしょうか？

「身体的距離」が問われる今、新型コロナは子どもたちの遊びも変えてしまったようです。

さて、「子育て四訓」をご存知でしょうか。子育てにおける親子の距離感が短い文章に的確にまとめられています。とても有名なので、一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。

1. 乳児はしっかり肌を離すな
2. 幼児は肌を離せ 手を離すな
3. 少年は手を離せ 目を離すな
4. 青年は目を離せ 心を離すな



もちろん、子育ては、この4つの言葉で言い尽くせるような簡単なものではありません。しかし、親子の適切な「距離感」が必要だということは、いつの時代も同じです。

自分一人では何もできず、親の助けや指導を必要としていた子どもたちも、小学校に入ると、徐々に「自立」への一歩を踏み出します。この時期になると、親は直接世話を焼くことを減らし、「見守る」姿勢になることが求められます。ですが、そうはいつでも、この「見守る」というのはなかなか難しいものです。「勉強しなさい」「早く起きなさい」などは、もう言わないと決心しても、我慢した末に、いつも以上にきつい口調になってしまうこともしばしばです。適度な距離を保ちつつ、「目を離さない」ことがポイントで、我が子のことをよく知り、理解していることが、この時期の子育てには欠かせません。スキンシップが減っていく代わりに、「いつも見ているよ」「大好きだよ」という気持ちを、言葉や行動で伝えることが大切だと思います。

そして、行動範囲も広がるこの小学生の時期は、親の目だけでなく、多くの大人の目で我が子を見てもらうことが大切です。多くの目で見てもらうことで、今まで気付かなかった良さに気付くことがあるかもしれないからです。「目を離さず」ということは、このように、子どもを多面的に理解していくことではないのでしょうか。担任と担任外の教員、担任と保護者、保護者同士が一緒になって、多くの目で子どもを見守っていくということがとても大事であると思います。

大洲小学校は、保護者や地域の方々にお世話になり支えられています。これからも、私たちは、保護者や地域の方との連携をとりながら、多くの目で子どもたちを、「目を離さず」に見守り育てていきたいと思っています。もちろん、心も離しません。



## 市内の小中学校の学級閉鎖等の基準

オミクロン株は感染力が強く、市内の小中学校でも、マスクの使用を含め、感染対策をとっていても子どもから子どもに感染したと思われる事例が確認されています。そこで当分の間、感染者が確認された学級は、感染可能期間（発症2日前から最終接触まで）に教育活動が行われた場合、クラスに濃厚接触者がいなくても、原則3日間の「状況確認のための学級閉鎖」をとることになっています。

閉鎖の期間中に他の児童に発熱等の症状がなければ閉鎖は解除しますが、他の児童に発熱等の症状が見られた場合は閉鎖期間を延長します。他にも感染者が確認された場合は「感染拡大防止のための閉鎖」に移行しますので、保健所や学校医の意見を伺い、あわせて1週間を目安に閉鎖期間を延長することとなります。

また、複数の学級が学級閉鎖の場合は学年閉鎖とし、複数の学年が学年閉鎖の場合は学校閉鎖（休校）とします。

### ○土日に感染が判明した場合

土日に子どもの感染が判明した場合は、できるだけ早く学校に連絡して下さいますようお願いいたします。月曜日の朝の連絡ですと、急に学級の児童生徒を下校させなければならないことがあります。

### ○部活動、放課後保育クラブ

学級（学年）閉鎖期間中は、部活動、放課後保育クラブも「学級（学年）閉鎖期間と同期間を出席停止」とします。感染拡大防止のためにご協力をお願いします。

## 保護者アンケート（学校関係者評価）より

12月に後期の保護者アンケートを実施しました。お忙しい中、ご協力をいただきありがとうございました。回答から、学校に寄せる期待や要望の大きさが伝わってまいりました。これからの教育活動に生かしてまいります。（集計結果は裏面をご覧ください）

○各項目とも、概ね肯定的な評価をしていただいております。6月のアンケートでは、「信頼される学校」の項目の「学校は、特色ある取り組みや教育を進めている」の肯定的な評価が、市内小学校全体のそれより3ポイント下回っていましたが、今回は2ポイント上回りました。また、前期の評価よりも6ポイント上昇しました。地域のボランティアの方々や環境資源を生かした体験重視の学習等の取り組みを評価していただいたものと考えます。

○すべての項目で、肯定的評価は市内小学校の平均値を上回りましたが、残念ながら「お子さんは、授業がわかりやすいと言っている」「お子さんは、家庭学習の習慣が身についている」「お子さんは、友だちや近所の人などに、自分から進んであいさつをしている」「お子さんは、すすんで（外で遊ぶなど）体を動かしている」の項目については、6月に実施したアンケートより、評価が2ポイント以上下がってしまいました。今後の課題として、改善を図ってまいります。